在宅で重症心身障害者と共に生きる母親のアドバンス・ライフ・プランニングを構成する概念モデルの開発

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 倉田, 慶子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003375

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 37 号

在宅で重症心身障害者と共に生きる母親のアドバンス・ライフ・プランニングを構成する概念モデルの開発

（Development of a conceptual model for advanced life planning of mothers of patients with severe motor and intellectual disabilities living at home）

倉田　慶子（くらた　けいこ）

博士（看護学）

論文内容の要旨

【目的】在宅で重症心身障害者と共に生きる母親の介護生活上の体験やニーズを含めたアドバンス・ライフ・プランニング（ALP）を母親と支援者の語りから抽出し、具体的な看護支援につなげるための移行理論に基づく ALP 概念モデル（以下：モデル）を開発する

【方法】はじめに、母親が介護生活上の体験やニーズを含めたアドバンス・ライフ・プランニングを検討するにあたり、障害者と家族の将来計画の課題とされている「在宅障害者の親亡き後問題」の文献検討を行った。次に、在宅で重症心身障害者と共に生活する母親とその支援者にインタビューし、介護生活上の課題とニーズを抽出した。インタビューで抽出された 10 カテゴリーから Meleis の移行理論をもとに ALP 概念モデルを作成した。さらに、ALP 概念モデルの下位概念から作成された質問紙を作成し、回答を得た。その結果から、SPSS を用いて探索的因子分析を実施し ALP 概念モデルの因子を抽出した。次に、確認的因子分析をするために Amos を用いて共分散構造分析で行い、ALP 概念モデルの概念妥当性を評価した。

【結果・考察】障害者と家族の「在宅障害者の親亡き後問題」は、生活の場所の確保が困難であることや介護する親代わりとなる者の不在であることがわかった。親の不安の軽減を図るための支援体制の再構築が必要である。そのような課題を抱えながら在宅で重症者と共に生きる母親の ALP は、「介護生活上の覚悟と葛藤」「子どもの成長発達と生活の変化」「きょうだいについての苦悩と期待」「情報収集の難しさと仲間とのつながり」「専門家からの支え」「親としての責任と決意」「収入への不安」「替えの効かない」の 8 因子で構成されていた。これらの 8 因子から作成した ALP 概念モデルについて、共分散構造分析を行った。すべてのパス係数は、0.1%水準であり、GFI は 0.783、AGFI は 0.748、CFI は 0.760、RMSEA は 0.069 であり、適合度は良好であった。この結果、本研究における ALP 概念モデルの概念妥当性は支持された。

【結論】

在宅で重症心身障害者と共に生きる母親の ALP 概念モデルを明らかにすることができた。今後は、看護の実践場面において、ALP 概念モデルを母親の ALP を検討する上でどのように取り入れていくのかを検討する必要がある。